

**1 活動名** 介護ロボット導入支援事業について (大和市)**2 調査の目的****(1) 本市の課題**

本市施設には、介護ロボット導入が進んでいない。

**(2) 調査の必要性**

本市介護職員負担軽減のために、介護施設における介護ロボット導入を促進する必要があると考え、導入支援事業を実施している大和市の事業概要を知るとともに、導入の状況と課題を知るため。

**(3) 調査項目**

- ①介護ロボット導入支援事業の概要
- ②同事業の効果と課題

**3 調査地選定理由**

都道府県単位で実施している自治体はあるが、市単独で導入支援事業を実施している自治体は限られている。

**4 調査結果**

**(1) 実施日** 平成 29 年 8 月 1 7 日

**(2) 出席者** 3 名 上條美智子 近藤晴彦 勝野智行

**(3) 結果**

- ① 大和市は、現在後期高齢者の 3 割が要介護認定を受けており、今後後期高齢者人口が増えることで要介護認定者人口も増えていく。一方、介護現場において、サービスを提供するための人員不足が介護保険事業を運営する上で課題となっている。このため、介護職員の身体的負担の軽減や業務の効率化が期待できる介護ロボットを導入することは有用であると考えた。しかし、介護ロボットはまだ高額であり、導入効果が明確でないため、事業者が導入に踏み切れないでいた。そこで、介護ロボットを先駆的な取り組みとして導入する事業者に対し、その費用の一部を補助することとし、28 年度途中から事業を実施した。
- ② 27 年度から神奈川県において、補助率 2 分の 1、上限 1 機器 10 万円の導入支援事業を実施していたが、実績が少なかった。当市は、より多くの事業所に導入してもらうために、補助率 10 分の 9、上限 1 機器 200 万円、1 事業者 300 万円までとした。
- ③ 28 年度実績は、7 事業者 8 事業所から申請があり、移乗介護機器 4 台、見守り機器 23 台、金額では予算額同等の約 1 千万の決算額となった。
- ④ 導入効果として、移乗介護用ベッドでは、移乗介護がスムーズになり時短につながった。パワースーツでは、腰痛が和らいだ。また、見守りセンサーでは、職員の負担が軽減された。見守りロボットでは、ロボットがダンスのインストラクターをしている間、他の利用者の誘導が可能になった。など。
- ⑤ 課題としては、介護ロボットにもデメリットがある。

**(4) 成果・所感等**

本市でも、介護職員の負担軽減並びに確保のために、積極的に介護ロボットの導入促進を図って頂きたい。各施設がどのような機器を必要とするのか、展示会などを開催し、検討の機会を設けてほしいと思います。

**5 政務活動費**

**(1) 使途項目** 調査旅費

**(2) 支出額** 「スタンドパイプ消火資機材設置事業について」と同様 以上